

# 小津森池（こづもりいけ）

## 位置図



## 諸元

貯水量	545	千m <sup>3</sup>
満水面積	7.9	ha
受益面積	139.8	ha
堤高	14.5	m
堤長	540	m

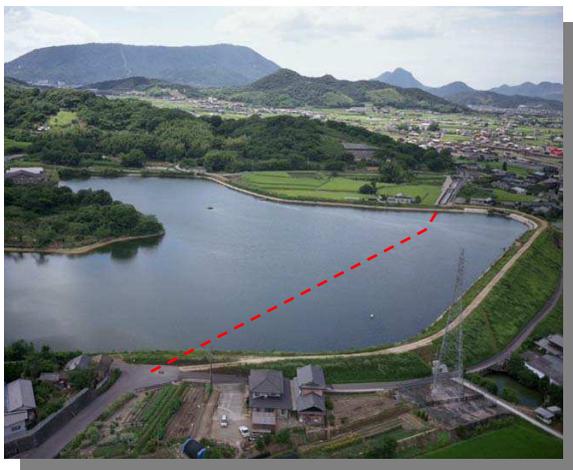
県道綾歌綾川線を丸亀市綾歌町岡田に入ると、南側に見えるのが「小津森池」です。

このため池を築造したのは、高松藩主松平頼重の家臣矢延平六で、寛文12年（1672年）の完成と伝えられています。文政年間（1818～1830年）には鶴多郡の大庄屋木村又左衛門らの努力で、はじめて嵩上げ工事が行われ、堤長141間（258.1m）、堤高4間半（8.1m）、貯水量13万8千m<sup>3</sup>の規模となりました。

しかし、まだ水不足は解消せず、水田の約4割は米ではなく綿や甘藷を栽培していました。明治27年（1894年）の干ばつの後、岡田村の土岐六蔵がため池の拡張を決意し、さっそく工事にかかり、貯水量が従来約4倍という大池が翌年に完成しました。これによって、この地の水稻栽培が盛んになったといわれています。

築造後長い年月を経て老朽化が進行したことなどから、昭和50～55年度（1975～1980年）に、県営ため池等整備事業により全面改修がなされ、農業用水の安定供給が図られることとなりました。これにより周辺地域では、ほ場整備（区画整理）が進み、生産性の向上と農業機械等の効率利用や農地流動化による規模拡大など、作業性の向上が図られています。

また、本池の中を香川用水のサイホン管が通り抜けるという珍しい構造をしています。



小津森池※



香川用水と小津森池堤体

※写真は国営総合農地防災事業香川地区事業誌より（赤線は香川用水）